

国際柔道連盟試合審判規定変更点

R4. 4. 1

1. 技が中断せず、継続した場合はスコアである。技が中断した場合はノースコア
2. 「体側の全体」が90度以上背中側に接地した場合技ありとする。体側全体が（90度以上背中側に傾いて接地した場合）肘が外側に出ているスコアを与える。技ありの基準の変更。
※「体側の全体」は「肩」と「腰」のポジションを見ること。
3. 片方の「肩」と「背中上部」が、接地した場合技ありとする。技ありの基準の変更。
4. 「受」が同時に両手、両肘をついた場合、「取」に技ありを与えると共に「受」にも指導を与える。
※脚取のように、「取」は寝技へ継続して有利なポジションをとれるが、「受」が有利なポジションになった場合は直ちに「待て」である。
5. IJF 通称「Rollover counter technique (めくり)」はノースコアである。
※両者、寝技への継続は認める。
6. IJF 通称「Reverse Seoi Nage (逆背負投)」はノースコア、指導である。（1回目から指導）
7. 技の最後の動作で帯より下に触れることを認める。（投げた場合はスコアとなる）技が中断した場合に帯より下をつかんだ場合は寝技として見なす。（スコアやペナルティは与えない）
※「巻込み」で多く見られるケースで低い背負投からの脚取りや脚を抱えながらの小内巻込みは認めない。技に入った時点では脚に触れていないが、技を終えるときに偶発的に取の腕が受の脚に触れた場合に指導は与えない。ただし、脚に触れる行為が（受の脚を押すなど）投技をアシストする行為である場合は指導である。（変更なし）
8. ポジティブな展開（ブロッキングをしていない場合）であれば「奥襟」と「襟」を認める。
9. 標準的な組み方ではない組み手の場合、技の準備を行う時間が与えられる。帯、片側、クロスグリップ、ピストル、ポケットグリップは全て標準的な組み方ではない。
※今までの「immediately (直ちに)」からは、技を準備するための時間が選手（取）に与えられる。
10. (相手の) 組手を片手、もしくは両手で切り、直ちに組手を持ち直してポジティブな展開であれば「指導」ではない。(相手の) 組手を片手、もしくは両手で切り、直ちに組手を持ち直さない場合は「指導」を与える。
※組手を切った選手が（自身の組み手も離すなど）直ちに持ち直さなかった場合は指導を与える。両手で組手を切って積極的な展開へ進めば「指導」は与えない。脚を使つての組み手を切る行為は（その後の展開にかかわらず）指導を与える。
11. 「柔道衣の直し」、「髪の直し」は、1試合にそれぞれ1回認められる。2回目は指導である。
※故意に帯をほどくことは今までと変わらず「指導」である。
12. ヘッドダイブは危険な為、「反則負け」になる。
※今までのルールと変わらないが、(特に子どもが真似をして首を怪我するような事案が発生しないようにするため) より厳格に判断する。